

## Fused teeth, Taurodont teeth のX線写真

内田啓一, 馬瀬直通, 長内 剛, 和田卓郎

松本歯科大学 歯科放射線学講座 (主任 和田卓郎 教授)

児玉健三, 深澤常克

松本歯科大学病院 歯科放射線科 (科長 和田卓郎 教授)

歯は通常, それぞれが独立して存在するが, 時として何らかの原因により2本または数本の歯が結合して, 歯の形態異常を呈することがある。また, 正常な解剖学的形態をとらない歯が形成されることもある。今回, 我々は, 乳歯および永久歯にみられたFused teeth (融合歯), Taurodont teeth (タウロドント歯) を経験したので, X線写真を供覧する。

Fused teeth (融合歯) は1つの歯胚が不完全分裂, 2個以上の歯胚が早期に結合して生じたものである。歯髓腔は歯冠または歯根で必ずひとつになっている。このため, 口腔内からでは歯冠部だけの所見のみであり, 一見巨大歯の様な所見を呈することがあるので, 口内法撮影を行い歯根部の状態を観察することが大切である<sup>1)</sup>。

Fused teeth (融合歯) の発生頻度は乳歯では少なく, 下顎前歯部に最も多く発生し, 融合部位としては, 下顎中切歯と側切歯, 側切歯と犬歯が多く, その他の部位ではほとんどみられないようである。

図1 : a, bは乳歯, 永久歯に認められたFused teeth (融合歯) のデンタルX線写真である。左側下顎乳中切歯と乳側切歯, 左側下顎中切歯と側切歯に認められたFused teeth (融合歯) である。2本の歯が1つの歯髓腔を共用し, 歯冠部の歯髓腔は2つに分かれ, 歯根部の歯髓腔は1つになっているのが認められる。また, 切端部融合部のエナ

メル質の溝が認められる。特に, このエナメル質の溝が深いものは齶蝕の好発部位となるので注意を要する。

Taurodont teeth (タウロドント歯) はKeith (1913)によって提唱され<sup>2)</sup>, 歯髓腔が長軸方向に異常に太く長くなることにより, 歯冠, 歯根の区分の不明化, エナメルセメント境の消失, 歯根形態異常を示すものをいう。下顎乳白歯部に高頻度に認められ, わが国における出現率は0.57% (大東 1978) といわれている<sup>3)</sup>。

図2は左側下顎第一乳白歯に認められたTaurodont teeth (タウロドント歯) のデンタルX線写真である。歯髓腔が異常に太く長く髓室が歯根部までに及んでいるため, 根分枝部が根尖側に移動している。



図1 :  
a : 乳歯に認められたFused teeth (融合歯)  
b : 永久歯に認められたFused teeth (融合歯)  
矢印 : 融合部のエナメル質の溝



図2：Taurodont teeth (タウロドント歯)

文 献

- 1) 野位倉武憲, 和田卓郎, 岡野友宏, 古跡養之眞, 前多一雄, 上村修三郎, 神田重信, 岸 幹二(1994) 口腔画像診断アトラス, 1版. 6. 医歯薬出版株式会社, 東京.
- 2) Keith, A. (1913) Problems relating to the earlier forms of prehistoric man. Proc. R. Soc. Med. 6 (part 6): 103-124.
- 3) 大東道治 (1978) 乳歯列における Taurodontism についての研究. 歯科医学, 41: 287.